

ツルタンへようこそ！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご家族の皆様、本日はおめでとうございます。鶴見大学短期大学部教職員一同、心より歓迎し、お祝い申し上げます。

皆さんは、保育者（保育士・幼稚園教諭）、歯科衛生士として社会に貢献するという明確な目標を持って本学に入学されたことと思います。同じ目標を持つ仲間とともに勉学に励み、所定の課程を修了して国家資格を取得できるよう、そして、専門職として活躍できるよう励んでいきましょう。私たち教職員も最大限サポートし、皆さんの夢の実現に尽力してまいります。質問や不安なこと等ありましたら、些細なことでもかまいませんので、どうぞ教職員に声をかけ質問したり、担任教員に相談したりしてください。

さて、入学に際し、日本の幼児教育の父である倉橋惣三の言葉を紹介します。「泣いている子がある。涙は拭いてやる、泣いてはいけないという。なぜ泣くのと尋ねる。弱虫ねえという。…随分いろいろのことはいいもし、してやりもするが、ただ一つしてやらないことがある。泣かずにいられない心もちへの共感である」（「幼児の教育」昭和10年12月号巻頭言より）

ここに出てくる「子」は保育現場の幼い子どもであり、「いろいろのこと」をしているのは保育者でしょう。けれど、子どもと保育者だけに当てはまることではなく、身近な人、困っている人、助けを必要としている人に対して、傍らにいる人間がまずどうしたらよいかを暗示しているように思います。その時々的心もちに寄り添いその気持ちを受け止め、共感してくれる人の存在がどれほどありがたいか。「悲しいね」「辛いね」「寂しいね」「泣きたくなるね」と言葉少なくともそばにいてくれる人の温かさ、共感を示してくれることの嬉しさ。皆さんにもこうした体験が少なからずあるのではないのでしょうか。

保育や保健に携わる仕事においては対象者がおり、その仕事は対人援助職の一つといえます。一人一人に寄り添い、必要かつ適切な支援をきめ細かく行うことができるよう私たちはその心と体と頭をフル回転させて対応することが求められます。これまで培ってきたコミュニケーション能力や感受する力といったものを生かし、相手の身になって考えたり察したりすることが大切になるでしょう。

こうした心性といったものを土台に、さらに本学での学びを通して、専門的な知識、技術を習得し、「さらに、もっと」自ら学び、考え、探求していく学生であってほしいと願っています。あやふやな知識や未熟な技術では人を助けることはできません。また自分に自信がなく、気持ちに余裕がないままでは相手の気持ちや抱えている状況がなかなか見えてきません。皆さんには、子どもや対象者の気持ちに共感するとともに、専門職として、的確な判断ができる頼もしい存在になっていただきたいと思います。そのことがより求められているのが現代の社会ではないのでしょうか。

専攻科に進学された皆さんは、本科で取得した国家資格をもって学び続けることとなります。さらなる専門的な学習に意欲的に取り組んでいただき、担当教員たちから多くを吸収してください。また、少人数での学び合いや現場での実践と検証・分析は今後、必ず役立つことと思います。専攻科での「厚い・熱い」1年は人生の宝になるはずです。

新型コロナウイルス感染症への不安は未だありますが、感染予防に留意し、健康管理に努めながら、目標を見失うことなく前向きに過ごしていきましょう。友人や知人、教師らと語り合い、伝え合い、豊かな人間関係を築き、是非、「共感力」を高めてください。この自然豊かな鶴見のキャンパスでの学びと学生生活が充実したものとなることを心から祈念して、祝辞とさせていただきます。

令和4年4月5日

短期大学部長 天野 珠路

